

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称	施策I-6-3 空港・港湾の維持・整備
---------	------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	港湾空港課長 土肥美実	電話番号	0852-22-5228
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	境港管理事業		
目的	(1) 対象	境港の利用者	
	(2) 意図	利用者ニーズを的確に把握し、港湾施設管理の向上を行い、取り扱い貨物量を伸張させる。	
事業概要	中海・宍道湖・大山圏域の産業振興、観光振興を図るため、共同管理者である鳥取県と連携し、施設整備、ポートセールス等を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	境港の年間取扱貨物量	目標値	450.0	450.0	450.0	450.0	万トン
	式・定義	年間取扱貨物量	取組目標値					
			実績値	373.8	374.8	366.3		
			達成率	-	83.3	81.4	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	522,161	556,499
うち一般財源 (千円)	556,499	553,320

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

境港の全体貨物量については、366.3万トンであり、前年比97.7%と微減となっている。
 輸・移入が増加する一方で、輸・移出は減少。
 輸入では、主に原木、移入では主にセメントなどが減少。
 コンテナ取扱貨物量については、前年比106.3%と増加。
 輸出については、とくに紙・パルプ、木製品が増加。
 輸入については、電気機械などが減少した一方、化学工業品が増加。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

20年9月のリーマンショックに端を発した世界同時不況の影響により落ち込んだ取扱貨物量は、近年横ばい状態であるが、29年は微減となっている。コンテナ貨物は、中国経済の回復や積極的なポートセールスなどもあり、過去最高の26,497TEUを達成した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 国内輸送においては、陸送が多数を占めているが、トラックのドライバー不足など等があり、船舶によるモーダルシフトが求められている。しかしながら、山陰地域は、国内海上輸送ネットワークのミッシングリンクとなっている。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 境港発着の国内定期航路がない。
- ③原因を解消するための「課題」
 中国地方と北海道、北陸、関東及び九州への物流促進及び効率化を目的とし、国内RORO船定期化に向けた試験輸送を実施しているが、航路の認知度向上、試験運行する船舶確保、輸送用車両確保、国内物流拠点形成、多様なニーズに応じたサービス提供等が不足している。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

中海・宍道湖・大山圏域の産業振興、観光振興を図るため、これまで、港湾管理者、民間等で個々の取組を行っているが、特に産業振興に資する取り組みとして、物流環境の改善に向け産官学金連携による日本海側の物流・商流を確立し、圏域の経済競争力を強化する。
 H27年7月に設置した境港流通プラットフォーム協議会を活用し、物流の改善、商流・取引環境の改善に向け、方策の実施、効果の検証を行っていく。